

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 足立 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

I. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

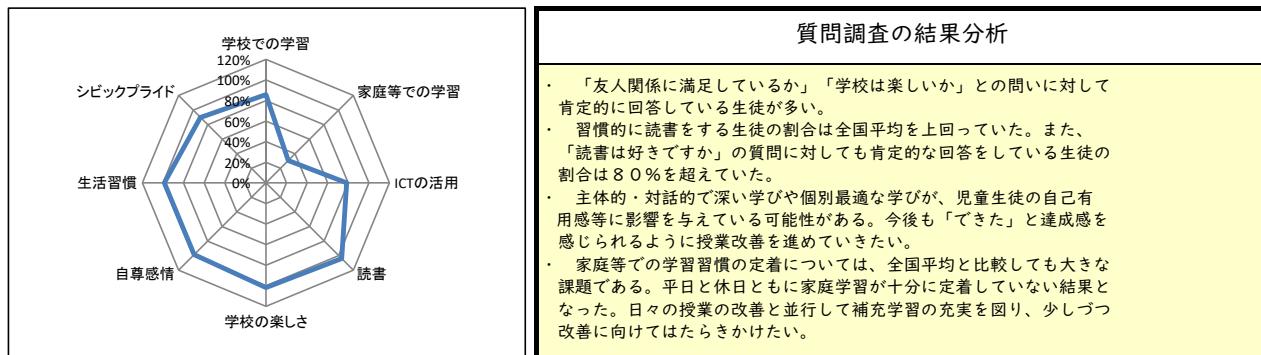
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率との比較では「知識・技能」及び「思考・判断・表現力」とともに下回っている。特に「思考・判断・表現力」については課題が見られ、「書くこと」に関する記述問題の対策が必要である。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「読むこと」：表現の効果について、根拠を明確にして考える問題	
	努力が必要な問題	「書くこと」：読み手の立場に立って表記を確かめて、文章を整える問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率との比較では「知識・技能」及び「思考・判断・表現力」とともに下回っている。どの問題にも課題が見られたが、特に「数と式」「関数」の2つの項目が顕著であった。これは「数と式」の基本的な計算能力の結果が関連していること、そして「傾き」の考え方等の一次関数に関する基本的な内容の理解が十分でないことが考えられる。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「データの活用」：必ず起こる事柄について、確率を考える問題	
	努力が必要な問題	「数と式」：目的に応じて式変形したり、その意味を読み取り、事柄が成立する理由を説明する問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率との比較では「知識・技能」及び「思考・判断・表現力」とともに下回っている。特に「思考・判断・表現力」については課題が見られた。自然現象や安全に目的を検証する実験上の注意点等を見直していく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「生物」：水生生物の呼吸について、生命を維持するはたらきに関する問題	
	努力が必要な問題	「粒子」：密度に関する知識・技能に関連付けて、種類の異なる気体の密度の大小関係を分析する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 国語では、文章を書く活動を定期的に実施する。また、文脈に即して漢字を正しく書けるように言葉の正しい意味や表現を朝自習や足立タイム等も活用し語彙力の定着を図りたい。
- 数学では、「正の数、負の数」「文字式」「方程式」等の基本的な計算能力の向上が必須である。朝自習や足立タイムを活用して、計算練習と確認テストを定期的に実施する。
- 理科では、自然現象に関する知識と実験操作に関する基礎的な技能を定着することが必要である。足立タイムや家庭学習用の課題を通して、基礎力の定着を図りたい。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学校での学習内容を家庭で復習できるような課題を各教科で工夫して提示していくように努める。